

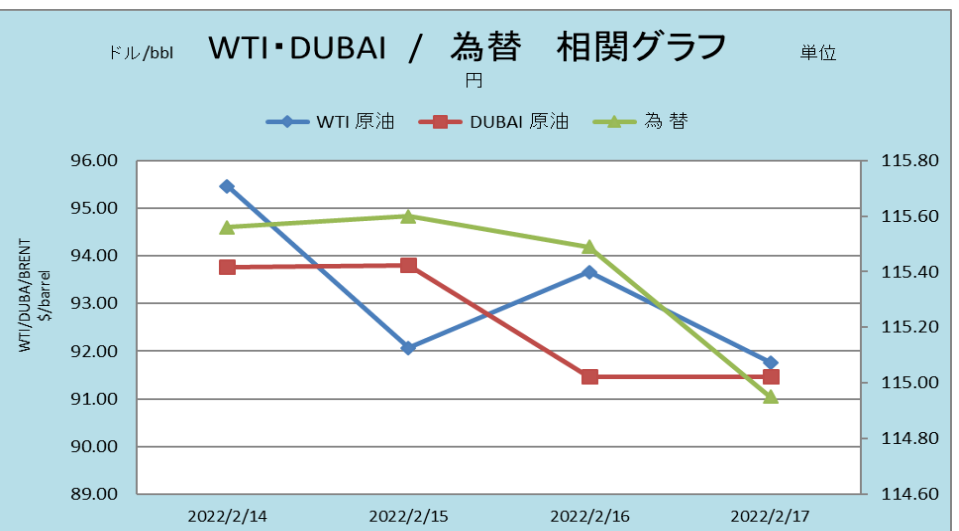
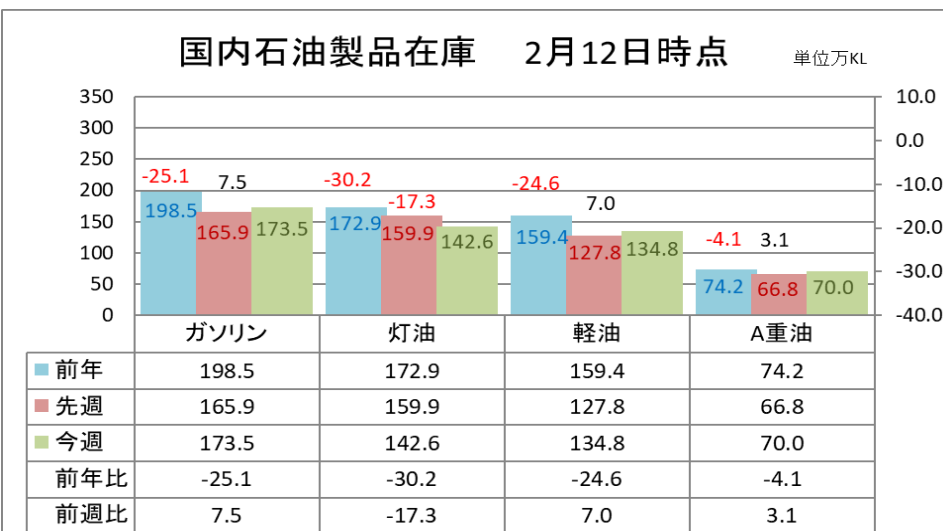
イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/2/18作成 (株)新出光

【概況】<ロシアによるウクライナ侵攻懸念により原油相場上下>

- 11日、国際エネルギー機関(IEA)はこの日公表した2月の石油市場報告で、景気の力強い回復基調を理由に今年の石油需要予測を上方修正しました。一方、「OPECプラス」の増産余力は総じて乏しく、1月は一部の国が生産目標を達成できなかったと指摘したことを受け、需給逼迫への懸念が強まり、相場は朝方の早い段階でWTI原油で91ドル台を回復しました。
- 14日、米政権がウクライナの在キエフ大使館を一時閉鎖し、業務を西部の都市に移すと発表したことで、ロシアによるウクライナ侵攻への警戒感をかき立てる形になり、原油相場は一気に95ドルを突破しました。
- 15日、ロシア国防省報道官が、西部と南部の軍部隊の一部が撤収を始めると発表したことで、外交的解決への期待感が急速に高まり、相場は前日比5%超安の90.66ドルまで下落しました。
- 16日、米エネルギー情報局(EIA)は週報を発表し、米原油在庫は110万バレル増と、市場予想の160万バレル減に反し、3週ぶりに積み増しに転じました。石油製品在庫は、ガソリンが130万バレル減、ディスティレート(留出油)が160万バレルでした。相場はEIAの発表後一時売りも出ましたが、見通せないウクライナ情勢を背景に堅調を維持しています。
- 17日、利益確定の売りが活発化し、一時WTI原油で90ドル割れに迫りました。この日は前日の流れに加え、イラン核合意再建に向けた交渉の結果が待たれる中、原油供給増への影響を警戒した売りも出ているようです。

2月18日 17:00現在 WTI原油 90.92ドル 為替 1ドル 115.11円



	次回元売変動予測	
	2/24~	前週比実質変動予測
ガソリン	➡	+1.0~+1.5
灯油	➡	+1.0~+1.5
軽油	➡	+1.0~+1.5
A重油	➡	+1.0~+1.5
LSA	➡	+1.0~+1.5

【製品卸価格】<月間玉販売本格化>

◀今週▶ 今週の元売り仕切り改定は3社ともに原油コスト「+1.0円」、補助金「-5.0円」となり、実質「+1.0円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの14日時点の小売価格の平均が171.4円となり、燃料油価格激変緩和措置が継続されています。補助金が上限まですでに入っている中で、原油コスト増のため、右肩上がりの仕入れ上昇を余儀なくされています。改定後の市況としては、月間玉の販売が本格化しており、市況の上げが抑えられている状況となっています。

◀2月19日以降▶ 次回の元売り改定は、現状での原油コスト「+1.0~+1.5円」に補助金は上限の「-5.0円」が入り、前回同様に原油コスト上昇分仕入れが上がることになりそうです。週末の市況は、ガソリンを中心に枠を持て余したディーラーが販売を進めており、小幅に下げの様相です。残りの営業日数も8日となり、焦り売りとなっていますが、オーダーの少なさからか、価格だけが徐々に下がって来ています。週明けも同様の状況が続くと思われます。

※原油コスト「+1.0~+1.5円」
 激変緩和補助金「-5.0円」
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<原子力による電力で水素製造実用化へ>

原子力発電所の電力で製造する水素が、米欧などで実用化に向け動き始めました。夜間など電力需要が少ない時間帯の余剰電力を活用し、比較的lowコストで量産できる点やエネルギーを自給できるというメリットがあります。国内でも関西電力が敦賀原発と連携して、原子力発電所で発電した電力で水素を製造する実証実験を4月から開始する予定です。水素は輸入が主になるため、液化して運搬し、国内で水素を取り出す技術など各社協議し、実証が進められています。国内で製造する際の最もコストが掛からない方法が化石燃料や天然ガスによる水素製造ですが、脱炭素社会に向けた製造法として、原子力発電による水素製造が最も低コストなため、検証が進められています。ただ、放射性廃棄物の最終処理方法など問題も多く、国内外での反発もあり、積極的に進めることが難しい状況でもあります。

[出典] ① <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC045WG0U2A200C2000000/>
 ② <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20211223/k10013401661000.html>